

## 今後のモニタリング調査の提案（円卓会議の専門家会議において検討いただいたもの）

調査項目	調査名	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法		
					器具	方法	
地形	深浅測量	水深	1回	三番瀬および三番瀬再生に関係のある周辺海域	精密音響探査機	測線間隔：50m 音響探査機を用いて測量 浅い海域は汀線測量	
環境条件	底質調査	酸化還元電位、粒度組成、強熱減量等	四季	補足調査と同程度（93地点程度）	スミス・マッキンタイヤ型採泥器	底泥表層を1回/1調査地点採取	
	水質調査	水温、塩分、pH、溶存酸素、COD、全窒素、全リン、クロロフィルa等	四季	10地点程度	バンドーン型採水器	バンドーン型採水器で各地点で6採水	
生物	底生生物調査	種の同定、個体数、湿重量、貝類の殻長等	四季	補足調査と同程度（93地点程度）	スミス・マッキンタイヤ型採泥器	底泥表層を2回/1調査地点採取 採泥後、1mmの篩に残った資料を採取	
	魚類調査	種の同定、個体数、湿重量、体長測定等	毎月	15地点程度	押し網（口径：縦30cm×横150cm×目幅2mm）	上層（水深10～20cm）、下層（50～70cm）の2水深で汀線と平行に約100mを2名で押す	
	中層大型底生生物調査	生息孔の分布等	1回	40地点程度		基点から岸方向に40mのライン沿いの海底をビデオ撮影し、解析	
	藻類調査	種の同定等	1回	20地点程度		ベルトトランセクト法（距離50m×片側幅2m）の藻類を記録	
	付着生物調査	種の同定、個体数、湿重量、空間分布等	四季	三番瀬およびその周辺		コドラート法、目視観察（ベルトトランセクト）	
	鳥類	シギ・チドリ類採餌状況調査	種の同定、個体数等	夏、冬	三番瀬、船橋海浜公園、行徳湿地	双眼鏡・望遠鏡	定点調査・ラインセンサス法
		スズガモ等の食性調査	食性調査等	11月～3月	三番瀬およびその周辺海上		溺死したスズガモの死体を解体
		経年調査	種の同定、個体数等	毎月	谷津干潟、船橋海浜公園、江戸川放水路、塩浜、日の出等の15地点	双眼鏡・望遠鏡	定点調査・ラインセンサス法
	アサリ	アサリ浮遊幼生調査	アサリ幼生の同定、殻長、個体数等	毎月及び盛期における連続調査	10地点	プランクトンネット（50μm目）	平成14年度調査に準ずる
		アサリ着底稚貝調査	個体数、殻長等	毎月	平成14年度調査と同程度（96地点程度）	ちりとり型採集器（着底稚貝：間口5cm、初期稚貝：間口20cm）	平成14年度調査に準ずる

注1）青潮、出水、台風等の環境に一時的に大きな影響を与える出来事があった時にも環境を調査する必要がある。

注2）千葉県水産研究センター富津研究所が行っているアサリ資源量調査は、今後も継続して行う必要がある。

注3）原則として補足調査と同一の地点で調査を行う必要がある。